

## 外務省での勤務を通じて

平成 28 年 12 月  
外交実務研修員 豊吉 彩乃  
(岐阜市より派遣)

### 1 はじめに

岐阜市から外務省に出向し、1 年半あまり経ちました。

私からは、外務省が取り扱う業務の中ではソフトかつ今まさに注目を集めている分野、人物交流室での業務についてご紹介したいと思います。

短い経験の中からはありますが、皆さんのご参考になれば幸いです。

### 2 人物交流室

人物交流室では、その名のとおり人と人との交流事業による諸外国との友好親善と対日理解の促進を目指しています。

地方自治体で活躍している国際交流員(CIR)や外国語指導助手(ALT)を招致するプログラムも取り扱っているので、教育、観光関係部局にはご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

その中で、私はスポーツ交流を担当しています。あまり地方自治体と関わる機会はありませんが、スポーツを通じた国際貢献、交流活動として、主に下記のような業務を行っています。

#### (1) スポーツ外交推進事業

人物交流室では、「スポーツ外交推進事業」という独自スキームで、国内競技団体や NGO, NPO 等と協力しつつ、トレーニングのためのアスリートや指導者の招へい及び派遣、スポーツ器材の輸送支援、在外公館を通じた啓発宣伝活動などの国際貢献事業を実施しています。

平成 27 年度から開始された新規事業のため、着任早々前例のない事業に取り組むことになりましたが、室内で協議や検討を重ねつつ、協力して 1 件 1 件案件を手作りしていったことを覚えています。

招へいした選手が日本選手と合同でトレーニングを行う際、お互い言葉は片言ながらプレーを通じてすぐに打ち解ける様子に、スポーツは共通言語なのだと印象深く感じました。



インドネシア、ミャンマー・セーリングチーム招へい  
Photo: Kazushige Nakajima/DailySailingJapan

外務省とスポーツのイメージがなかなか結びつかない方も多いのではないかと思います(私も例に漏れません), いま外務省では, 我が国政府が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて推進しているスポーツを通じた国際貢献策,



ベトナム・パラ水泳選手・コーチ招へい

「Sport for Tomorrow(SFT)プログラム」に積極的に取り組んでおり, スポーツ外交推進事業もその一環として実施しています。

SFT プログラムは官民連携で多くの事業が実施されており, コンソーシアムには地方自治体からの加入もありますので, 興味のある方はぜひ一度ホームページ(SFT コンソーシアム: <http://www.sport4tomorrow.jp/jp/>)をご覧ください。

## (2)オリンピック・パラリンピック

もう一つ重要な担当業務があります。東京 2020 大会を控え, 注目度の高まりに比例して業務量も増えつつある, オリンピック・パラリンピックです。

オリパラは夏冬合わせて 2 年に一度の大イベントですが, 多くの要人が現地へ渡航するため, 外務省がそれをフォローすることになります。オリパラは民間主催のイベントのため, TICAD やサミットといった日本政府主催の行事に比べれば職員の動員規模は小さいものの, 大会の際は日程のアレンジや車両等のロジ調整のメールが大量に飛び交い, 数ヶ月間メールボックスは騒然となります。

2020 年は国内開催ということでややイレギュラーですが, 後任として地方自治体から派遣される方は, ぜひ楽しみにお越しください。

記憶に新しい 2016 年のリオ大会は, 東京の直前大会に当たるため多くの要人が現地入りされたこと, また治安が問題視されていたことは皆さんもニュース等でご存じかと思います。

私は本省と現地の両方で業務に携わる機会を頂きました。無事フラッグが東京に引き継がれましたが, その背景には本省と在外公館の多くの方々による入念な情報収集や調整, 適切な情報発信といった努力が積み重ねられています。

そうした姿を, 自分も業務に関わりながら知ることができ, 非常に良い経験となりました。



大会中リオに設置されたジャパンハウスの様子

### 3 おわりに

外務省では非常に幅広いジャンルを取り扱います。地方自治体ではまず接することのない分野も多く、配属先によっては、「地方自治体でどう活かすか」に悩むこともあるかもしれません。

しかし、私もまだ1年半という短い期間ですが、外務省に来なければ出会えなかった多種多様な省庁、企業、団体の方々と仕事をさせていただくことができましたし、意思決定の早さや業務の中で重視する観点の違いなど、出向元との違いに刺激を受けつつ過ごすことができました。

この後に控える在外公館勤務も含め、地方自治体ではなかなか得がたい経験と思います。出向元の自治体を客観的に見つめる良い機会にもなりますので、もし外務省派遣の打診があれば、それに乗ってみるもの楽しいのではないのでしょうか。